

特別シリーズ（番外編）  
 「さくらサイエンスプラン」でインド行政官・研究者招へい ①  
 第2回日印大学交流会も開催

科学技術振興機構  
 SSP特別招へいプログラム

科学技術振興機構（JST）では、「さくらサイエンスプラン（SSP）」事業のひとつとして、インドをはじめとする主要対象国からSSPへの協力者候補となるべき若手の行政官や研究者を招へいしている。

これまでにインドから、2017年1月に科学技術省、人的資源開発省などの政府機関から、また2019年1月には、インド工科大学を中心にした国家重要機関に指定された国立研究大学19校と政府機関から若手行政官や教員、研究者を招へいしてきた。

さらに今年度は国公立だけでなく私立を含むインドのトップ大学23校と科学技術省から合計25名を1月26日から2月1日までの1週間で開催した。（招へい機関一覧を参照）

その結果、前回と合わせると、JSTはSSPを活用してインドのトップ大学42校の教員、研究者を招へいし、日本の多くの大学に紹介したことになり、過去の日印大学交流の歴史においても例を見ない規模の事業になったと考えられる。

日本の先端ICTを体験

JSTでは今回もこれまでと同様にインドが最大の強みを持つICT（Information Communication Technology）に関係する人材を招へいし、産業技術総合研究所（人工知能研究センター）、東京大学（情報理工学系）、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、富士通（株）などを訪問し、専門家の説明を受けるなどして最先端のICTを体験してもらった。各訪問先では活発な質疑応答がなされ、

有意義な訪問となった（プログラム日程表を参照）。

インド科学技術関係者招へいプログラム 日程表	
1月26日（日）	日本到着、オリエンテーション
1月27日（月）	AM 産業技術総合研究所人工知能研究センター訪問 PM 東京大学訪問
1月28日（火）	終日 麻布大学訪問
1月29日（水）	AM 情報通信機構（小金井）訪問 PM 宇宙航空研究開発機構調布宇宙航空センター訪問
1月30日（木）	AM 社会文化視察 PM 第2回日印大学交流会
1月31日（金）	AM 富士通株式会社訪問 PM 報告会・歓送会
2月1日（土）	離日



初日のオリエンテーションにて



産総研人口知能研究センターでの受講



東京大学でのオリエンテーション

## 招へい機関一覧

Aligarh Muslim University
Amity University
Amrita University
Anna University
Birla Institute of Technology And Science, Pilani
Calcutta University
Delhi Technological University
Department of Science and Technology(DST)(科学技術省)
Indian Institute of Information Technology Design And Manufacturing, Jabalpur
Indian Institute of Information Technology, Allahabad
Indian Institute of Science
Indian Institute of Space Science and Technology
Jadavpur University
Jawaharlal Nehru University
Manipal Academy of Higher Education
National Institute of Technology (NIT), Tiruchirappalli
National Institute of Technology(NIT), Calicut
National Institute of Technology(NIT), Rourkela
National Institute of Technology(NIT), Surathkal
National Institute of Technology(NIT), Warangal
Savitribai Phule Pune University
University of Delhi
University of Hyderabad
Vit University Chennai Campus



麻布大学でのSSP受入れ実施現場の見学



JAXAにて裸眼立体視を体験



富士通ではIoTの説明を受けた

## SSP実施現場も見学

今回の招へいでは、SSP一般公募プログラムで顕著な成果を上げている麻布大学を訪れ、アジア各国から麻布大学が公募で採択されたプログラムで獣医学関連の教員を招へいし、教育方法を指導するという一般公募プログラム実施中の現場を見学した。今回インドから招へいたメンバーは基本

的にICTの専門家であり獣医学は専門外ではあったが、参加者はSSP事業の実施現場を目的の当たり前にして、その指導方法、内容に大きな感銘を受けていた。この経験は、将来SSPの送出し機関となるべきインドのトップ大学にとって、SSP事業の有効性を直接体験してもらう非常にいい機会となったことは間違いない。

〈第2回につづく〉